

地域ケア会議 区レベル会議のまとめ

テーマ 「認知症高齢者への支援」

前回議論したまとめである資料5、基本圏域レベルで議論した結果である資料6をもとに、課題ごとに解決策の具体案について話し合ってください、最終的に地域ケア会議からの提案としてまとめていきます。

課題1 若い世代を含む多世代に認知症を正しく理解してもらうにはどうすればよいか

解決策① 認知症サポーター養成講座の受講の機会を増やす。
身近な地域に開催場所を確保する

- (提案例)
- ・まず高齢者のことを知ってもらう必要があるため、疑似体験とセットにする。
 - ・受講後の知識活用、実地体験の場（見守りメール登録勧奨、見守り訓練の実施等）。
 - ・講座について、実施目的を周知・啓発と人材育成の2つに再編・再構築することを検討する。

解決策② 子育て世代、子ども世代に認知症を正しく理解させる

- (提案例)
- ・庁内連携を強化し、学校等での認知症サポーター養成講座を教育委員会等へ働きかける。
 - ・夏休みや学校開放等の機会に開催するなど、子どもの親世代にも受講の機会を提供する。

※この用紙は提出不要です。ご自分の意見をまとめる際にご利用ください。
※別紙、検討シートもあわせてご活用ください。

課題2 認知症の方や家族の集いの場をどのように増やすか

解決策③ 本人や家族がいつでも気軽に集まれる住民主体の集いの場を整備する。その場所を広く周知する

- (提案例)
- ・「認知症の人でも誰でも」「いつでも」来ることができる認知症カフェの試行に取り組む
 - ・認知症の人と家族が、安心して自然に利用できるような民間の飲食店や店舗等を増やす
ために必要な支援を検証する（大都市だからできる近所やまちの方によるゆるやかな見守り）

memo

課題3 早期発見と関係機関へのつなぎをどのように行うか

- 解決策④ センターが困った時の相談場所であることの周知を行う
その他の相談先リストの作成と、区民への普及啓発を行う
- 解決策⑤ 認知症の人の早期発見と関係機関へのつなぎ、見守りを行う
上での個人情報の扱いを定める
- 解決策⑥ 支援を求める訴えが弱い人や複合的な症状を抱えた人への
気づきと早期発見の仕組みづくりに取り組む
- 解決策⑦ 重複・複合的な困難状況を抱えた人を発見したとき、介入
できる仕組み、またその後の対応・支援、孤立させない
仕組みづくりに取り組む

課題と解決策が幅広いため、2つの視点から考えます。

個別支援の視点から

- (提案例)
- ・成年後見制度の周知、さらなる充実を図る。

ネットワークづくりの視点から

- (提案例)
- ・地域力の活用のため特別出張所へ働きかけ（地域力推進会議地区委員会分科会の活用 等）
- ・地域包括支援センターが、高齢者がいる世帯の複合課題の解決に向けたマネジメントを担うことができるよう、特に障害・精神・医療分野について、迅速に連携できる体制を作る。
(一例として、誰もが使え、情報共有ができる共通のシートの作成 等)

memo